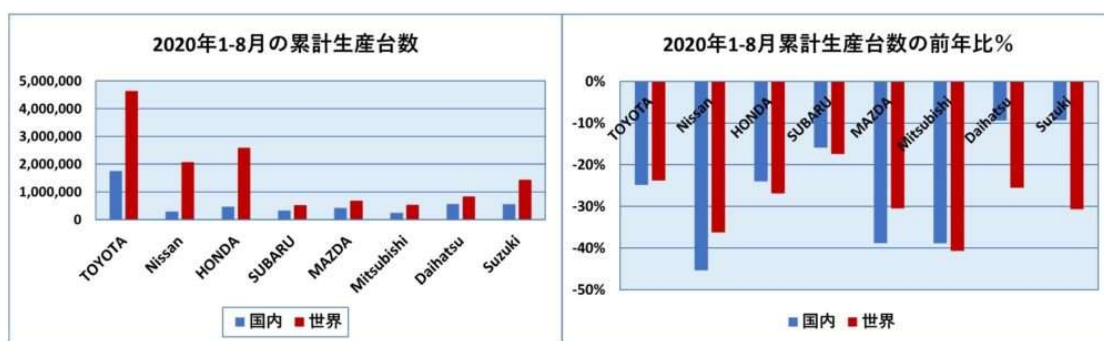


毎月末にトヨタ、日産、ホンダ3社の生産台数を紹介してきましたが、どうやら国内メーカーは、すべて同一日に揃って生産台数を公表しているということがわかり調べてみました。確かに各社から公表はされていましたが、普通にホームページからアクセスするとなかなかたどり着かず、探すのに苦労しました。しばらく探すうちに、ニュースリリースのような場所にあることがわかり、乗用車を生産している8社の生産台数を調べることができました。ついでに1-8月までの累計生産台数も数字が載っていましたので、あわせてご紹介することにします。

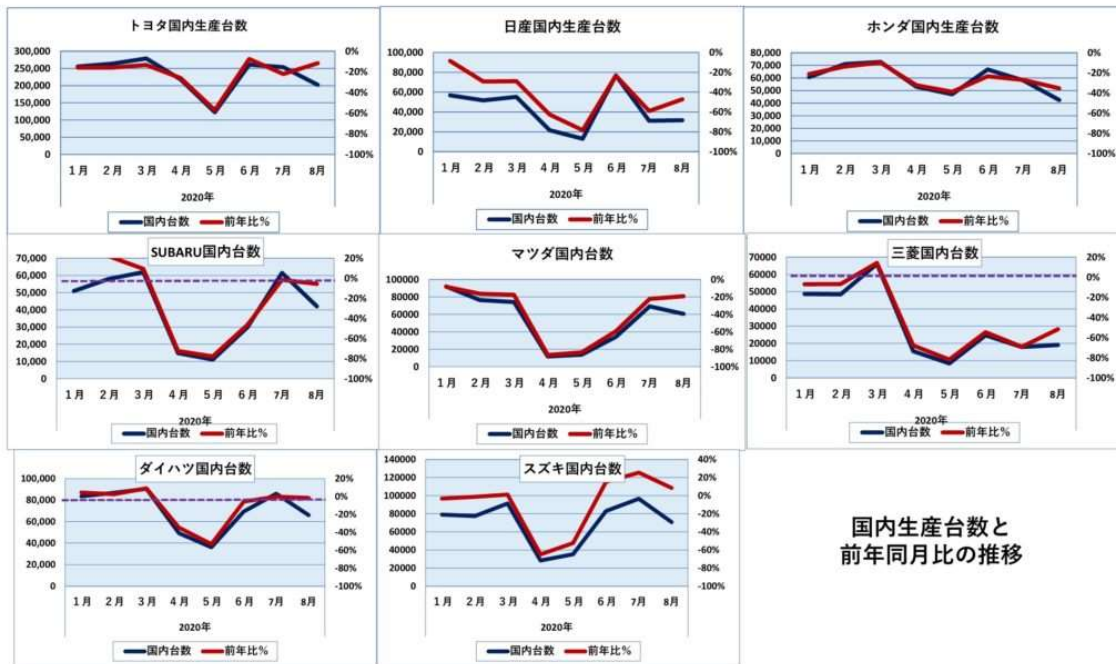
最初は、1-8月の累計生産台数とその前年比です。今年どのくらい生産が落ち込んでいるのかが最も端的に表れる指標です。メーカーの記載順は特に意味がありません。思いついた順に並べただけです。



左の累計生産台数のグラフは、これだけではあまり意味をもたないのではないかと思います。国内と国内を含む世界の生産台数と並べると間接的に海外生産の比率が推定できます。右の図は1-8月の累計台数の前年度比です。すべての会社が前年度を下回る生産台数なので、グラフの棒が長いほどマイナスが大きいことになります。ざっとみると日産、マツダ、三菱の3社のマイナスが大きいようです。逆にマイナスの小さな会社としては、ダイハツとスズキの国内、およびSUBARUあたりが挙げられます。

累計台数の傾向がわかったところで、今度は、国内と世界（国内含む）の生産台数と前年同月比の推移をみることにします。

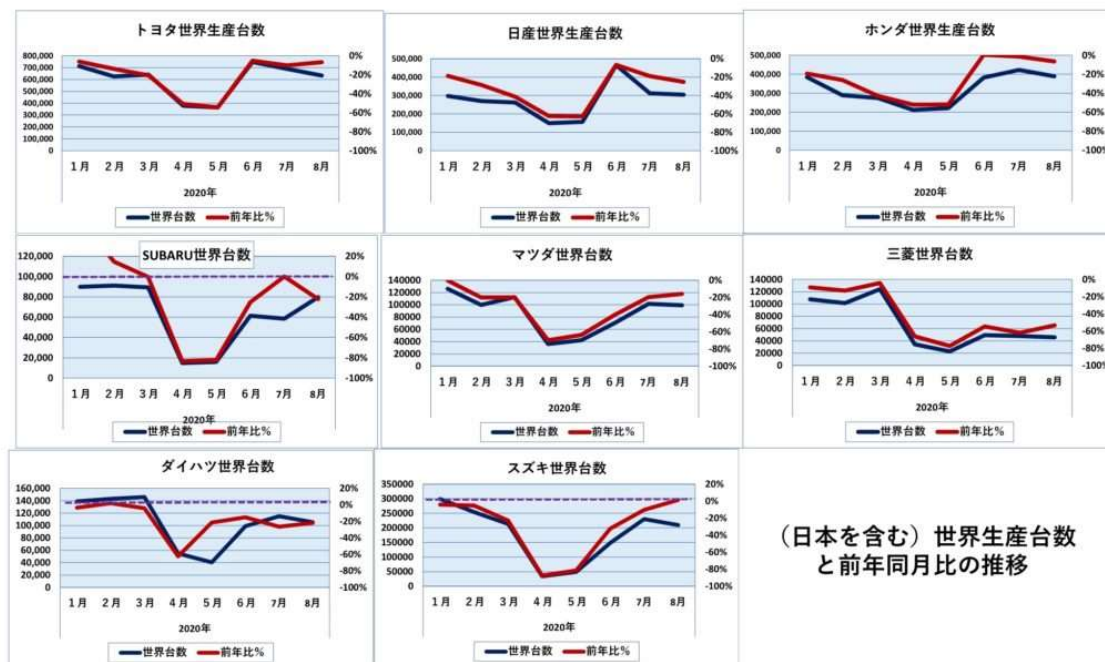
青線が台数、赤線が前年同月比を表しており、第二軸（右）の数値は横並びで比較できるようそろえてあります。一部第二軸を合わせられなかったところは、紫の点線をいれてあります。



4月5月に大きな落ち込みを示しているのは全ての会社に共通ですが、谷の深さや幅からみて、落ち込みが小さいという印象をうけるのは、トヨタ、ホンダ、ダイハツ、スズキあたりでしょうか？SUBARUとマツダは谷の幅は広く見えますし、日産と三菱は、谷がさらに横に広がり回復が遅れているように見えます。

7月8月で前年同期なみに回復したのは、トヨタ、SUBARU、ダイハツ、スズキ、もう一息なのがマツダといったところでしょうか？次に世界生産台数と前年同月比の推移を見ます。

世界生産台数についても、基本的な傾向は国内生産台数と同様かと思います。SUBARUとスズキが4月5月の谷の深さが極めて深いのですが、これはこの期間両社とも海外生産をほとんど停止したいたことによるものですが、その後は順調に回復し、特にスズキは8月の世界生産台数で唯一プラス（1%）を記録しています。このほか、7月8月で前年同月なみに回復した会社はトヨタとホンダが挙げられます。



自動車産業は、日本の産業分野の中で、コロナ禍により最も顕著に打撃を受けた産業の一つでしたが、着実に立ち直りつつあるようです。特に中国市場ではすでに大きく前年同月を上回る状態となっているそうです。ただ、回復の歩みは会社によりかなり差があるようですので、これからも折を見てこうしたご紹介を続けていきます。